

【5年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国語	<p>〈読むこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文学的な文章において、物語のあらましを捉えたり、人物の行動の意味や心情について叙述を基に捉えたりすることは、概ねできている。 ○説明的な文章においては、全体の構造を捉えることはできるようになってきているが、指示語の読み取り、語彙等に課題があることから、叙述を基に筆者の考えを捉えたり要旨を把握したりすることが十分にできていない。 ○読書に意欲的に取り組むことができる児童が多い。 <p>〈書くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まとまった量の文章を書くことへの苦手意識がある児童もいる。語彙力、表現力に個人差がある。 ○「はじめ・中・終わり」という構成で文章を書くことは概ねできているが、「中」の部分を中心に合わせて詳しくしたり、自分の考えを適切に表現したりすることが十分にできていない。 ○書いた文章を、適切に読み返す習慣と技能が十分に身に付いていない。 <p>〈話すこと・聞くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて話題や内容を決めたり選んだりすることは概ねできている。話の構成を考えたり資料を適切に活用したりすることに課題がある。 ○話し手の目的や内容を捉え、自分の考えと比較しながら考えをまとめることが十分にできていない。 ○立ち場や意図を明確にしながらかし合 	<p>〈読むこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読み解く力」の育成について計画的に指導を積み重ねる。特に「係り受け解析」（主述関係・修飾被修飾の関係）、「照応解析」（指示語の読み取り）、「イメージ同定」（図表や絵や写真等と文の関係から読み取る）については国語における学習を生かして他教科の授業でも意識的に指導する。 ○様々な読解の場面で、意味が曖昧だったり分からなかったりする言葉を辞書やICTを活用して調べ、意味を正しく捉えられるようにする。 ○ポプラタイムと読書週間を活用し、読書に親しむ時間を確保する。読書の量や内容について、学校全体でのめあてを明確にし、児童一人一人がめあてをもって読書に取り組めるようにする。「読書のあしあと」に、年間を通じて読了した本を記録させる。成増図書館と連携してブックトークを実施し、読書の楽しさに目を向けさせる。 <p>〈書くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○報告文や紹介文など文種に応じて、書く手順を明確にした指導を行うことで、書き表し方を身に付けさせるとともに、文章を書くことへの抵抗感を少なくしていく。 ○読書の取り組みや、語彙ノート「言葉の宝箱」、辞書の活用によって、語彙の拡充に取り組む。 ○主述の呼応、誤字、脱字等といった表記上の観点や目的に合った文章になっているかの観点を明確に提示して、書いた文章を読み返し修正する活動を積み重ねる。 <p>〈話すこと・聞くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書くことの学習と関連づけて、話の構成や意図を伝えるための資料の活用の仕方等を具体的に指導し、学習を積み重ねる。 ○相手の聞き、自分の考えと比較する観点や方法について具体的に指導し活動を積み重ねる。 ○立ち場や意図を明確にした話合いの仕方に

	<p>うことに課題がある。</p> <p>〈漢字〉</p> <p>○日常的な漢字練習にはしっかり取り組む児童が多く、小テストでは成果をあげる児童も多いが、既習の漢字の活用が十分でなかったり時間と共に忘れてしまったりする傾向があり、定着度は個人差が大きい。</p>	<p>ついて具体的に指導し活動を積み重ねる。</p> <p>〈漢字〉</p> <p>○漢字は、授業の中や宿題等で繰り返し学習できるようにする。読み替えの漢字を学習する際に、既習事項を確認する。部首についても、新出漢字の学習で確認し、意識させる。</p> <p>○国語に限らず様々な場面で、既習の漢字を使って記述する指導をする。</p>
社 会	<p>○調べたことをまとめる学習に意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○社会的事象についての興味・関心に個人差がある。</p> <p>○地図や統計等の基礎的資料を読み取ったり、目的に応じて活用したりすることに不慣れであり、不得手と感じている児童が多い。</p> <p>○自分の生活と関連付けて学習内容を捉えることが十分に身に付いていない児童もいる。</p> <p>○世界地図や日本地図など位置関係の把握や理解に不慣れな児童が多い。</p>	<p>○ICTを活用して、今起きている社会的事象と5年生での学習内容を関連付け、社会的な事象に対する児童の興味・関心を高める授業をする。</p> <p>○教科書の地図や統計等の資料を読み取ったり活用したりする活動を意図的に積み重ねる。読み取り方や活用の仕方についても具体的に指導をする。</p> <p>○学習内容と関連する事柄について、写真や動画等の資料を活用して自分の生活と比較させることで、身近な問題として捉えられるようにする。</p> <p>○地図帳を使う活動を積み重ね、使い方や見方に慣れるようにし、興味・関心を高める。</p>
算 数	<p>〈数と計算〉</p> <p>○基本的な四則計算の方法は理解している児童が多い。正確さと計算にかかる時間の個人差が大きい。小数の乗法と除法では、小数点の移動に課題がある。計算のきまりについては、正しく覚えて使うことができていない。</p> <p>〈図形〉</p> <p>○分度器・コンパスの使い方を忘れがちである。面積、体積は公式を理解し活用することはできるが、複合図形の求積の方法を筋道立てて考えることに課題がある。</p> <p>〈変化と関係〉</p> <p>○単位の換算を苦手としている児童が非常に多い。</p> <p>〈データの活用〉</p> <p>○求められている事項についての折れ線グラフの読み取り、二次元表からのデータの読み取りに課題がある。</p>	<p>〈数と計算〉</p> <p>○整数や小数・分数の四則計算は、小数点の移動、通分や約分等を押さえて、正しく解くことができるように練習を積み重ねる。</p> <p>○計算のきまり、整数や小数のしくみ、十進位取り記数法についての復習に、東京ベーシックドリルを活用して計画的に取り組む。</p> <p>〈図形〉</p> <p>○図形では、分度器やコンパスの使い方について繰り返し指導し練習の機会をもつ。</p> <p>○面積、体積は、公式の意味、使い方の指導の繰り返し行い身に付けさせると共に、様々な複合図形の求積問題についての指導を積み重ねる。</p> <p>〈変化と関係〉</p> <p>○単位の換算は、単位の関係性を具体的に理解させ、重さ・長さ・かさ・広さなど様々な単位でも繰り返し練習する。</p> <p>〈データの活用〉</p> <p>○社会科や理科、国語等での表やグラフの読み取り場面で、算数の既習を生かしたり復習したりする学習を意図的に積み重ねる。</p>

		<p>〈その他〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分で考え集団で検討していくような、問題解決型学習を多く取り入れる <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決をしていく際には、既習事項を活用できるようノート作りを指導していく。自分の考えを図や表、式、数直線などを使って分かりやすく書けるようにしていく。 ・集団検討の場面では、自分の考えを表現したり、説明したりする活動を多く取り入れる。 2. 反復練習の時間の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に、計算のきまりの確認をしたり面積の公式を使う図形問題を解いたりする時間を適宜設定する。 3. 家庭学習とポプラタイム(朝自習)の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの活用：診断シート結果から、個々の課題を把握し、個に合った学習の取り組みを通して学習の定着を図っていく。
理 科	<p>○見通しをもって実験、観察をする方法に慣れてきたが、予想や仮説をもとに解決の方法を発想する力が十分に身に付いていない。</p> <p>○基本的な実験・観察の技能が十分に身に付いていない児童が存在する。</p> <p>○理科の実験や観察などには興味をもって取り組んでいる。</p>	<p>○調べるための条件について全体で確認した上で、解決方法の検討に入る。変える条件と同じにする条件を話し合う際は、丁寧に指導して解決方法を発想する力を養う。</p> <p>○実験前に、道具の使い方や安全指導を確実に行う。危険度の高い活動は必ず演示を行う。</p> <p>○興味や関心をさらに刺激するような体験や活動から問題づくりを行い、実験や観察など体験的な方法を多く取り入れることで、実感ある理解を導く。</p>
音 楽	<p>○目標をもって最後まで頑張ろうとする児童が増えてきた。</p> <p>○どのように演奏したいのか、歌いたいのかについて思いや意図をもって、演奏したり、歌ったりすることができる児童が増えてきた。</p>	<p>○高学年としての意識を高めていく。</p> <p>○児童がさらに思いや意図をもって音楽活動に取り組むことができるように題材構成を工夫する。</p>
図 工	<p>○表現したいイメージに対して、どのように表現していったらいいのか、完成への筋道を立てることが難しい児童がいる。</p> <p>○知識・技能に大きな差のある児童がいる。</p> <p>○自由に考え表現することができる児童が多い。決まり通り作品を進めるのではなく、自分の意志で決定し、どんな作品にするか考えることが得意である。</p>	<p>○作品づくりの見通しを児童一人一人がもつことができるよう、既習の題材を例に想起させたり、制作の流れを視覚化したりするなど指導の工夫をする。</p> <p>○教師が積極的に実演や支援、評価をするとともに児童が互いに支援し合える座席配置を工夫する。</p> <p>○材料や用具、技法を、数ある中から児童が自分の表したいイメージに合わせて選ぶことのできる環境を強化する。</p>

<p style="text-align: center;">体 育</p>	<p>○体育全般に対して意欲的に取り組める児童が多い。</p> <p>○運動の種類により、児童の技能に個人差がある。</p> <p>○(コロナ禍の影響もあり)ゲームの学習において、チームの友達と関わり合い、高め合いながら運動する楽しさを十分に積み重ねられていないため、勝敗に対しての強いこだわりを乗り越えづらい児童がいる。</p> <p>○学習を振り返り、自己の課題を見つけて次の学習に生かしていくという学習の仕方が十分に身に付いていない。</p>	<p>○苦手意識をもつ児童にも運動本来の楽しさや技能を獲得したときの達成感が味わえるように、資料提示によって運動の仕方についての理解を促し、用具や場を工夫し段階を踏んだ指導をする。児童同士の教え合いの授業を充実させる。</p> <p>○誰もが楽しめる運動の仕方やルールを工夫して、勝敗だけでなく、チームワークの大切さや良いプレーに注目し、認め合える態度を育てる。</p> <p>○ワークシートを活用して、自分のできているところと課題を明確にし、めあてをもって練習や運動に取り組めるようにする。</p>
<p style="text-align: center;">家庭科</p>	<p>○裁縫や調理など実践的・体験的な学習だけでなく、家庭生活にも興味・関心が高く、意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>○熱心に真面目に取り組んでいるが、制作の技能に関して個人差が大きい。</p> <p>○生活に目を向けることができても、自分の考えを深めて、活動・実践していくことに十分に結びついていない。</p>	<p>○生活に必要な基礎的な技能を身に付けさせるために、実践的・体験的な学習を多く取り入れる。また、調理や制作以外の学習内容にも興味をもって取り組めるように授業を工夫していく。</p> <p>○ICTを活用しながら、知識と技能の習得を図る。教材教具を工夫し、分かりやすい授業を目指していく。また、個に応じた指導を行い、技能を高めていく。</p> <p>○児童が家族の一員であり、生活者であると自覚できるよう、家族の中での自分の仕事を意識させ、毎日の生活を考えながら行動できるようにさせると共に、振り返りの機会を設ける。</p>
<p style="text-align: center;">道 徳</p>	<p>○登場人物の状況や気持ちを自分事として捉え、考えを書いたり発言したりできる児童が多い。</p> <p>○自分の生活を振り返り、道徳的価値に照らし合わせて、できた経験、できなかった経験を想起し、それについての考えを書いたり発言したりすることは十分にできていない。</p>	<p>○登場人物の気持ちに沿って考え、道徳的価値に迫ることができる発問や学習活動を工夫するとともに、考えを十分に伝え合うことのできる学習形態を工夫する。</p> <p>○毎時間の学習において、道徳的価値について考える活動の後、自分の経験を振り返ったり、友達の経験を効いたりする学習活動を位置づけ、積み重ねていく。</p>

<p>総合的な学習の時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に調べ学習に取り組む児童が多い。 ○テーマから考えて、自分なりの課題を見付け、決めることができるようになってきている。 ○自分の課題について、有効な資料を収集・選択できなかつたり、調べて引用した文章の意味を理解して自分の考えを加えることができなかつたりすることがある。 ○調べた内容を伝えるために分かりやすく適切に表現することは十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の学習や生活経験との関連を基にすることで課題意識をもちやすくする。課題設定の方法について具体的に指導する。 ○各教科と関連付けて、資料収集力や資料を読み取る力を高め、課題に即した適切な資料の収集や取捨選択の仕方を学ばせる機会を設ける。 ○調べたことやそれについての自分の考えを適切にまとめ、表現するための方法を具体的に提示し、まとめたり表現したりする活動を積み重ねる。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語自体には興味・関心があり、意欲的に取り組むことができる児童が多いが、人前で英語を話すことには消極的な児童も見られる。 ○ゲーム的な活動には、積極的に参加できる児童が多い。やり方やルールを理解するのに時間を要する児童もいるが、繰り返すことによって理解することができる。 ○単語やフレーズが聞き取れないことが意欲の低下につながる様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、英語に触れる機会を多く設けるようにする。特に児童が英語を話す機会を増やす。授業中の指示についても、できるだけ英語を多く使用して英語に慣れ親しめるようにする。 ○ALTが入る授業では、担任が事前に内容を把握し、支援が必要と思われる活動や支援の方法等をあらかじめ想定し、適切に支援を行う。 ○ゆっくり読んだり繰り返し読んだり区切って読んだりなどの工夫をする。知っている単語や前後の話の流れから、大体の内容を捉えらる仕方について具体的に示し活動を積み重ねる。